

第157回 中小企業の景気動向調査

調 査 要 項

調 査 時 点	平成25年9月上旬
調 査 対 象 期 間	平成25年7月～9月実績 平成25年10月～12月見通し
調 査 対 象 企 業	当金庫お取引先 1,783 社(大阪府内ならびに尼崎市)
回 答 企 業 数	1,352 社
回 答 率	75.8%
調 査 方 法	調査票郵送および聞き取り調査
分 析 方 法	アンケート調査による各質問項目で「増加」したとする企業数が全体に占める構成比と「減少」したとする企業数の構成比との差(DI)を中心にして分析を行いました。

アンケート企業の内訳

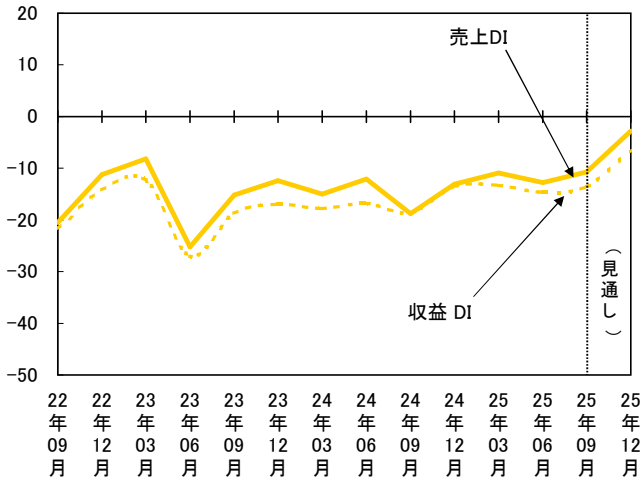
業種別 従業員別	製造業	卸売業	小売業	飲食業	建設業	サービス業	運輸業	不動産業	計	構成比	累計 構成比
1～4人	77	44	102	53	41	63	2	47	429	31.7%	31.7%
5～10	113	56	36	18	85	53	11	19	391	28.9%	60.7%
11～20	108	27	15	12	35	28	20	5	250	18.5%	79.1%
21～30	39	6	2	6	16	12	11	1	93	6.9%	86.0%
31～50	33	17	7	6	9	12	15	4	103	7.6%	93.6%
51～100	21	5	7	2	5	5	5	1	51	3.8%	97.4%
101～	13	3	3	1	0	11	4	0	35	2.6%	100.0%
計	404	158	172	98	191	184	68	77	1,352	100.0%	
構成比	29.9%	11.7%	12.7%	7.2%	14.1%	13.6%	5.0%	5.7%	100.0%		

(製造業の内訳)

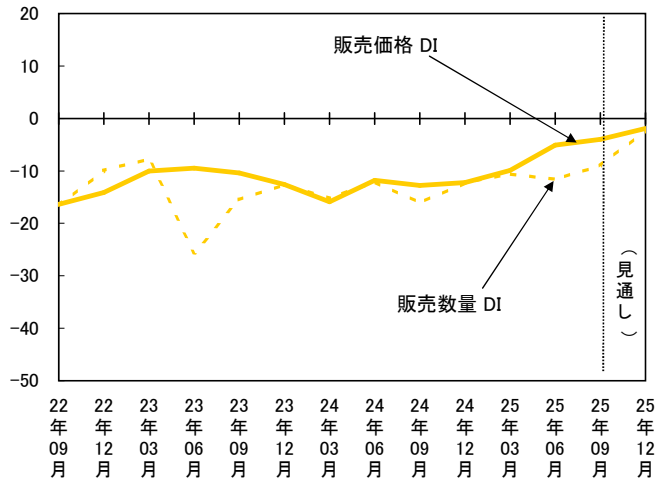
食料品	繊維	木材	家具・建具	パルプ・紙	印刷	化学
4.9%	10.8%	2.3%	1.8%	3.1%	7.5%	7.7%
ゴム・革	鉄鋼	建材	非鉄金属	金属製品	電子部品	その他
1.3%	9.3%	1.3%	4.4%	27.8%	4.1%	13.7%

「アベノミクス」効果 ようやく現れる！

【売上受注・収益DIの推移】



【販売価格・数量DIの推移】



◆広がり始めた「アベノミクス」効果◆

売上DIはマイナス10.7（前回比+2.1ポイント）、収益DIはマイナス13.6（前回比+1.0ポイント）となり、売上DI・収益DIともに上昇しました。

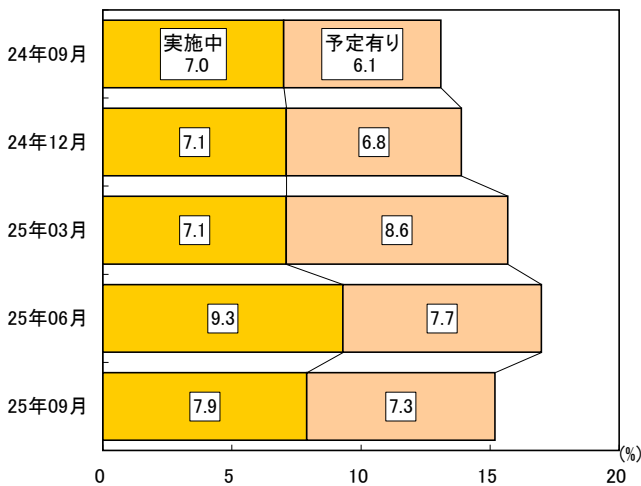
平成25年10-12月期は、売上DIは7.9ポイント、収益DIは7.1ポイント改善する見通しです。「アベノミクス」効果は、ようやく中小企業に広がり始めましたが、従業員規模が小さな企業では十分に効果が現れていません。

◆販売数量が売上を牽引◆

販売価格DIはマイナス4.0（前回比+1.1ポイント）、販売数量DIはマイナス9.0（前回比+2.6ポイント）となり、販売価格DI・販売数量DIともに上昇しました。

平成25年10-12月期は、販売価格DIが2.1ポイント、販売数量DIは6.7ポイント改善する見通しです。年末にかけて、主に販売数量の増加で売上が回復すると予想しています。

【設備投資】

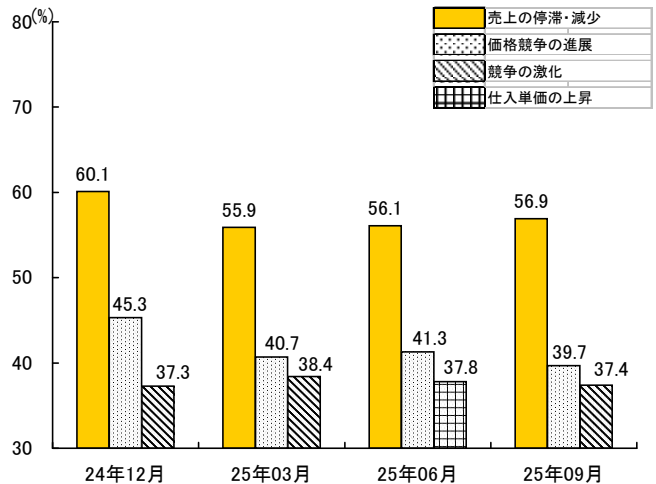


◆一進一退の設備投資◆

「実施中」は7.9%（前回比-1.4ポイント）、「予定有り」は7.3%（前回比-0.4ポイント）となりました。「実施中」と「予定有り」の合計は15.2%です。

設備投資の主な内容は、「機械等の新設・増設」と、「事務所、店舗、工場等の保守・更新」です。また、資金調達方法は「全て自己資金」が最も多く、「5割以上の借入」が続きます。

【経営上の問題点】(複数回答)



◆続く価格競争◆

第一位は「売上の停滞・減少」が56.9%、第二位は「価格競争の進展」が39.7%、第三位は「競争の激化」が37.4%となりました。

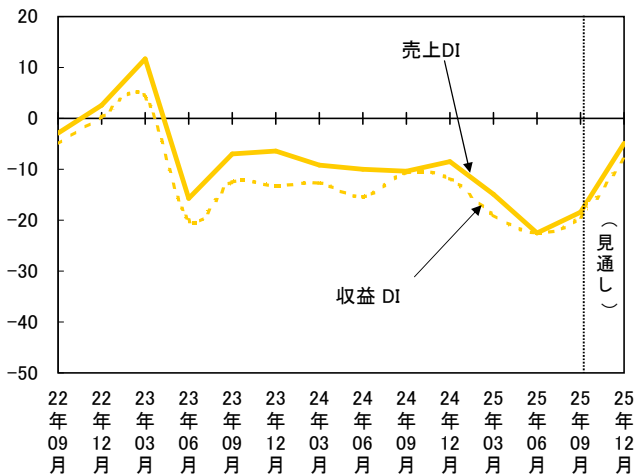
「アベノミクス効果」が現れるのが遅く円安によるコスト増が先行する中小企業では、価格競争がますます激しくなると思われます。

(中小企業診断士：平山)

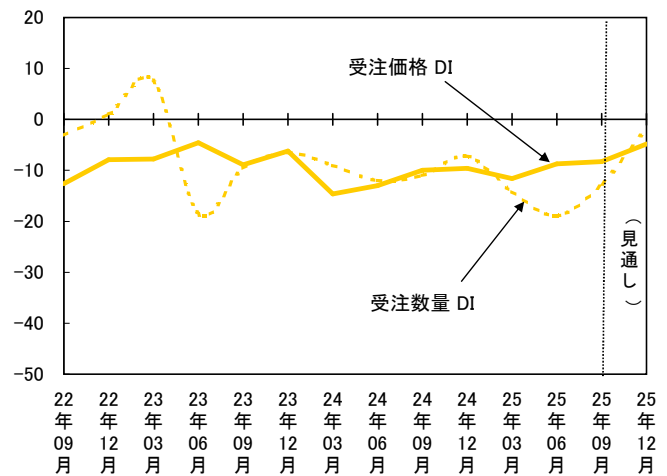
製造業 (404社)

製造業 穏やかに回復する

【売上受注・収益DIの推移】



【受注価格・数量DIの推移】



◆穏やかに回復◆

売上DIはマイナス18.4（前回比+4.1ポイント）、収益DIはマイナス19.4（前回比+3.1ポイント）となり、売上DI・収益DIともに上昇しました。平成25年10-12月期は、売上DIが13.5ポイント、収益DIが11.5ポイント改善する見通しです。

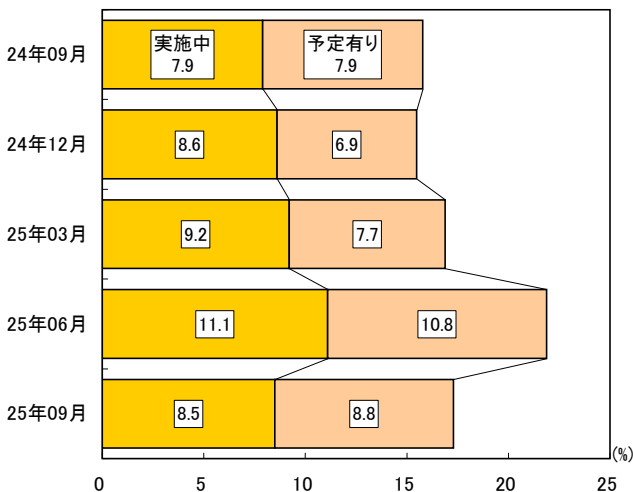
アベノミクス効果はようやく製造業にも現れ、年末にかけて見通しは大きく改善すると考えています。特に、機械部品など金属製品を扱う企業で売上や収益が回復しています。

◆受注数量DI急回復◆

受注価格DIはマイナス8.3（前回比+0.4ポイント）、受注数量DIはマイナス12.7（前回比+6.2ポイント）となり受注価格DI・受注数量DIともに上昇しました。平成25年10-12月期は、受注価格DIが3.5ポイント、受注数量DIが10.9ポイント改善する見通しです。

部品などの仕入価格は上昇していますが、受注価格の上昇は穏やかです。売上の回復は、主に受注数量の増加によるものです。

【設備投資】

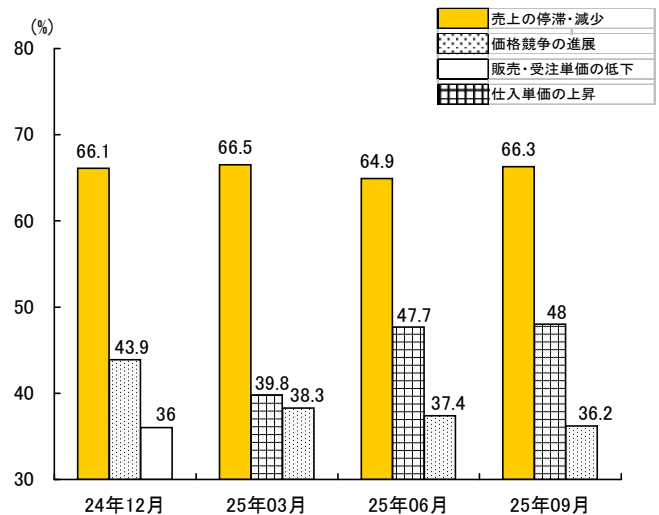


◆足踏みする設備投資◆

「実施中」が8.5%（前回比-2.6ポイント）で、「予定有り」が8.8%（前回比-2.0ポイント）となりました。「実施中」と「予定有り」の合計は、17.3%です。

設備投資の主な内容は、「機械等の保守・更新」と「機械等の新設・増設」です。また、資金調達方法は「全て自己資金」が最も多く、「5割以上の借入」が続きます。

【経営上の問題点】(複数回答)



◆続く仕入単価の上昇◆

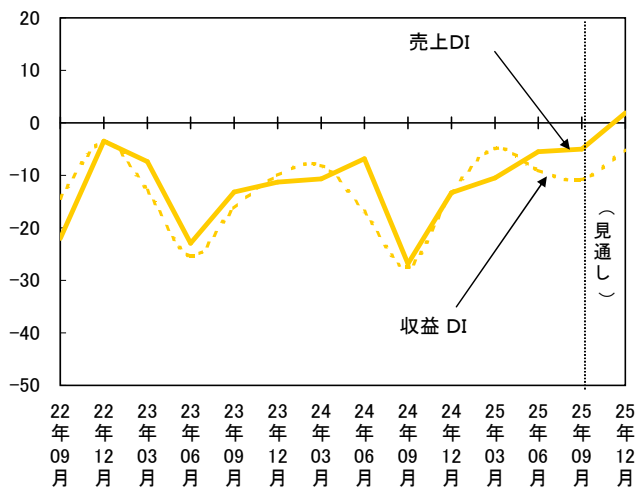
第一位は「売上の停滞・減少」が66.3%、第二位は「仕入単価の上昇」が48.0%、第三位は「価格競争の進展」が36.2%となりました。

「仕入単価の上昇」が引続き大きな問題点の一つとなりました。販売価格への価格転嫁が進むにはもう少し時間が必要です。

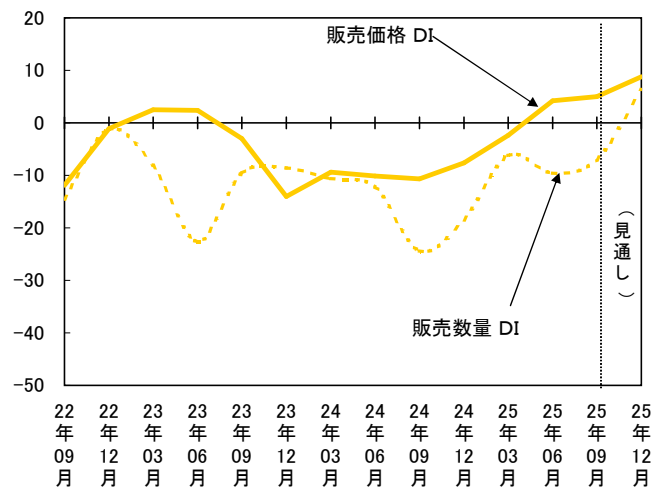
(中小企業診断士：兵庫、尾崎、小阪)

上昇する仕入価格 苦戦する収益

【売上受注・収益DIの推移】



【販売価格・数量DIの推移】



◆苦戦する収益◆

売上DIはマイナス5.0（前回比+0.5ポイント）、収益DIはマイナス10.8（前回比-1.8ポイント）となり、売上DIは上昇し、収益DIは下落しました。平成25年10-12月期は、売上DIは6.9ポイント、収益DIは5.7ポイントともに改善する見通しです。

特に、建築材料関連を扱う企業では売上が回復しています。しかし、食料品や建築鋼材などの仕入価格は上昇し、収益の確保が厳しくなっています。

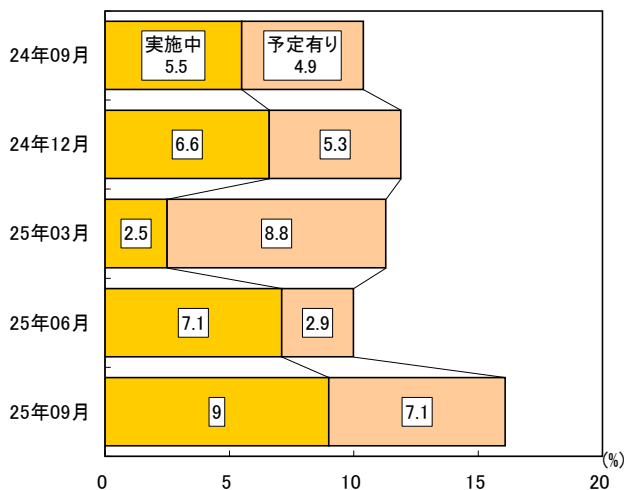
◆販売数量の回復に期待◆

販売価格DIはプラス5.0（前回比+0.8ポイント）、販売数量DIはマイナス7.0（前回比+2.6ポイント）となり販売価格DI・販売数量DIともに上昇しました。

平成25年10-12月期は、販売価格DIは3.8ポイント、販売数量DIは13.3ポイント改善する見通しです。

売上の回復は、主に販売数量の回復によるものです。

【設備投資】

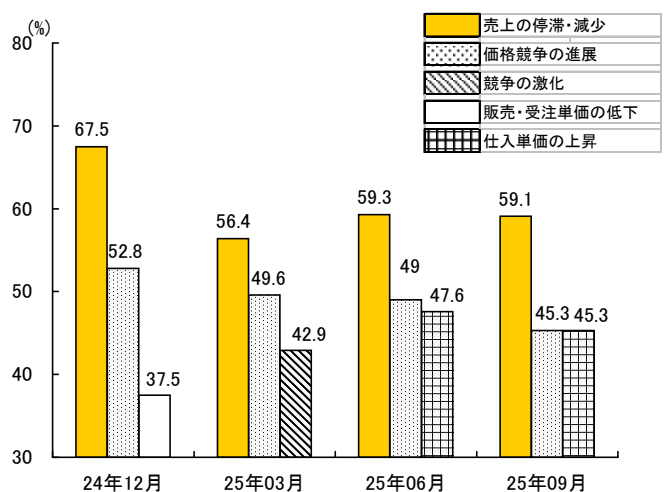


◆急回復する設備投資意欲◆

「実施中」が9.0%（前回比+1.9ポイント）、「予定有り」は7.1%（前回比+4.2ポイント）となりました。「実施中」と「予定有り」の合計は16.1%です。

設備投資の主な内容は、「事務所、店舗、工場等の新設・増設」と「事務所、店舗、工場等の保守・更新」です。また、資金調達方法は「全て自己資金」が最も多く、「5割以上の借入」が続きます。

【経営上の問題点】(複数回答)



◆懸念される「仕入単価の上昇」◆

第一位は「売上の停滞・減少」が59.1%、第二位は「価格競争の進展」が45.3%、第三位は「仕入単価の上昇」が45.3%となりました。

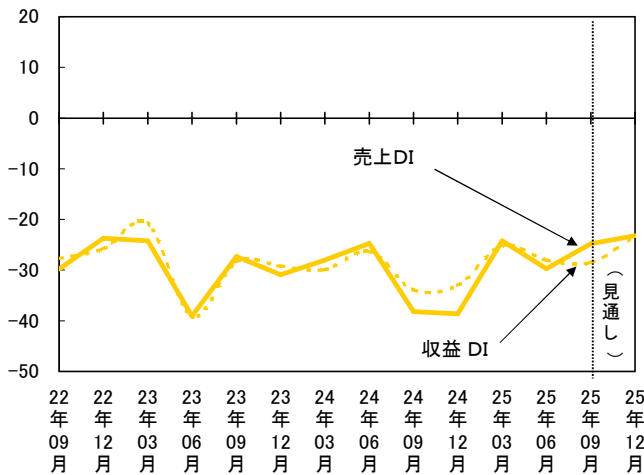
「価格競争の進展」は落ち着きを見せており、今後は「仕入単価の上昇」が大きな問題点となりそうです。

(中小企業診断士：稲津、宗和)

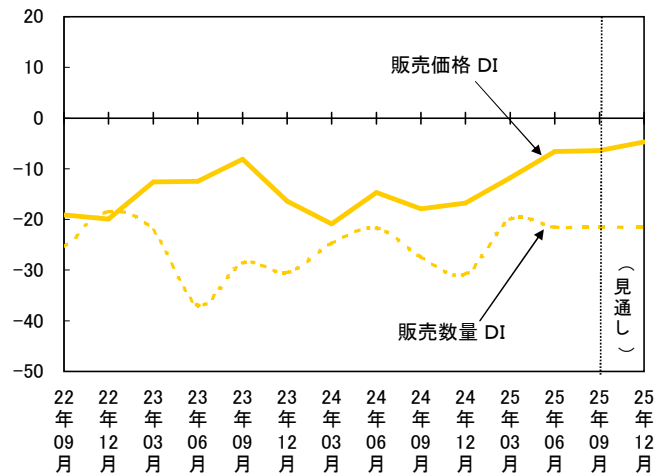
小売業 (172社)

蚊帳の外 厳しい小売業

【売上受注・収益DIの推移】



【販売価格・数量DIの推移】



◆蚊帳の外の小売業◆

売上DIはマイナス24.8（前回比+4.9ポイント）、収益DIはマイナス28.5（前回比-0.5ポイント）となり、売上DIは上昇し、収益DIは下落しました。

平成25年10-12月期は、売上DIが1.6ポイント、収益DIが5.2ポイント改善する見通しです。

個人消費マインドの回復を背景に売上は上昇しました。しかし、マインドには力強さはうかがえず、今後も苦戦が予想されます。

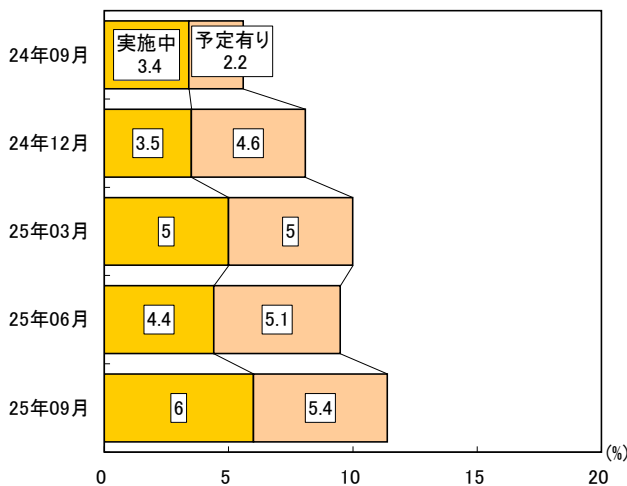
◆伸び悩む販売数量◆

販売価格DIはマイナス6.4（前回比+0.2ポイント）、販売数量DIはマイナス21.5（前回比±0.0ポイント）となり、販売価格DIは上昇しましたが、販売数量DIは横這いでした。

平成25年10-12月期の見通しは、販売価格DIが1.7ポイント改善し、販売数量DIが0.1ポイント悪化する見通しです。

個人消費マインドは回復基調ですが、日用品の購入に対する節約志向は続いています。中小小売業では、年末商戦への期待もあまり大きくないようで

【設備投資】



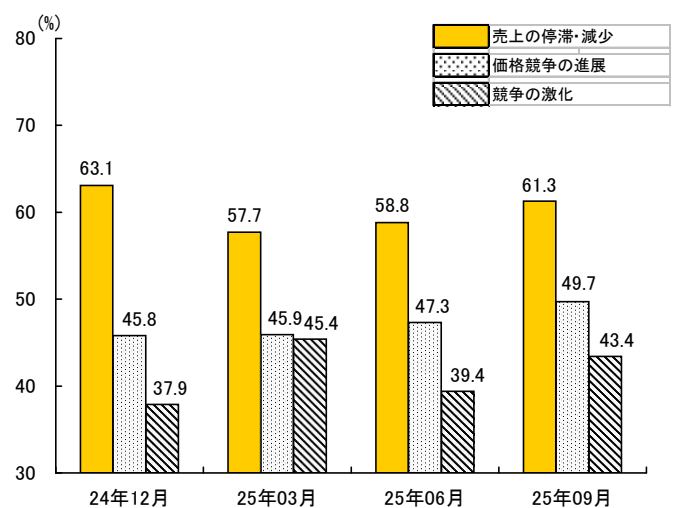
◆微増する設備投資◆

「実施中」は6.0%（前回比+1.6ポイント）、「予定有り」は5.4%（前回比+0.3ポイント）で、「実施中」と「予定有り」の合計は11.4%となりました。

設備投資の主な内容は、「事務所、店舗、工場等の新設・増設」が半数となりました。

また、資金調達方法は「5割以上借入する」が多く、設備投資に前向きな企業が増加しています。

【経営上の問題点】(複数回答)



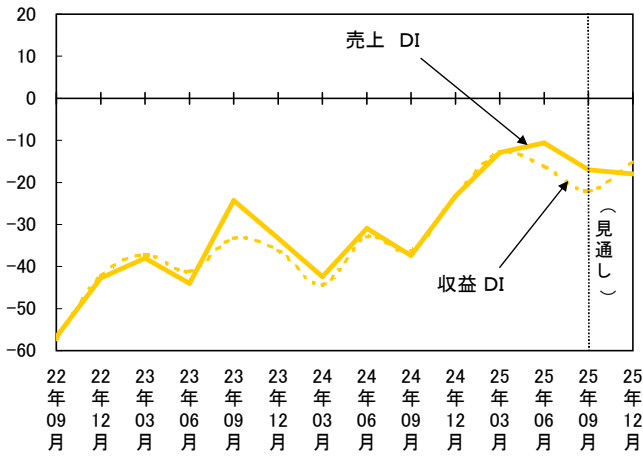
◆価格競争が激化◆

第一位は「売上の停滞・減少」が61.3%、第二位は「価格競争の進展」が49.7%、第三位は「競争の激化」が43.4%となりました。

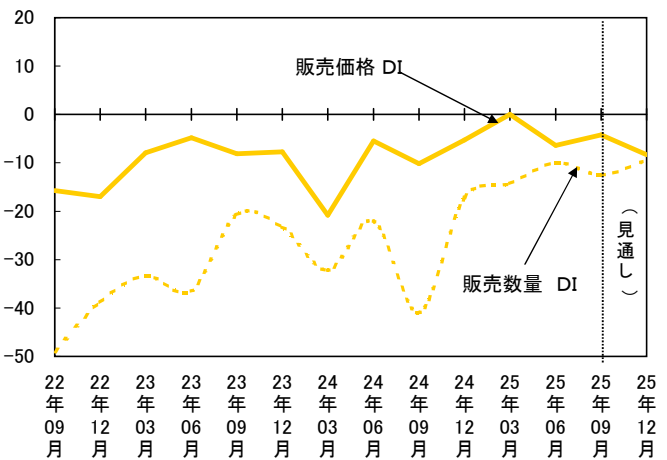
個人消費マインドは上向き物価も上昇していますが、賃金の上昇は遅れています。消費者の財布の紐は固く、中小小売業では売上を確保することが最も大きな経営課題です。

(中小企業診断士：澤田、金澤)

【売上受注・収益DIの推移】



【販売価格・数量DIの推移】



◆客足遠のく飲食業◆

売上DIがマイナス17.0（前回比-6.4ポイント）、収益DIがマイナス22.0（前回比-5.8ポイント）となり、売上DI・収益DIともに下落しました。平成25年10-12月期は、売上DIが1.0ポイント悪化し、収益DIが7.0ポイント改善の見通しです。

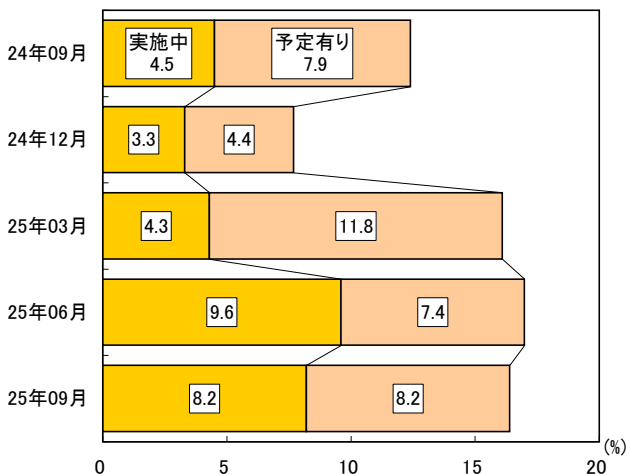
駅近の飲食店では、盆休みや連休の影響、顧客の節約志向から売上が大きく落ち込みました。円安や猛暑による食材価格（野菜価格など）の高騰で収益も厳しい状況です。

◆忘年会に期待◆

販売価格DIは-4.2（前回比+2.2ポイント）、販売数量DIはマイナス12.5（前回比-2.5ポイント）となり、販売価格DIは上昇し、販売数量DIは下落しました。平成25年10-12月期は、販売価格DIが4.1ポイント悪化し、販売数量DIは3.0ポイント改善の見通しです。

顧客は大手ショッピングセンターのフードコートやチェーン店などに奪われ、販売数量が大きく落ち込みました。今後は、年末にかけて忘年会シーズンの到来で販売数量が回復することを期待しています。

【設備投資】



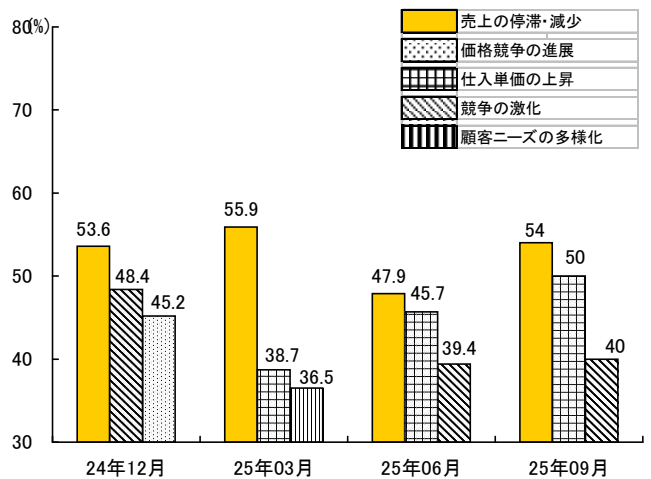
◆年末に向けて設備投資あり◆

「実施中」は8.2%（前回比-1.4ポイント）、「予定有り」は8.2%（前回比+0.8ポイント）で、「実施中」と「予定有り」の合計は16.4%となりました。

設備投資の主な内容は、半数が「事務所、店舗、工場等の保守・更新」となりました。

また、資金調達方法は、半数が「全て自己資金」となりました。

【経営上の問題点】(複数回答)



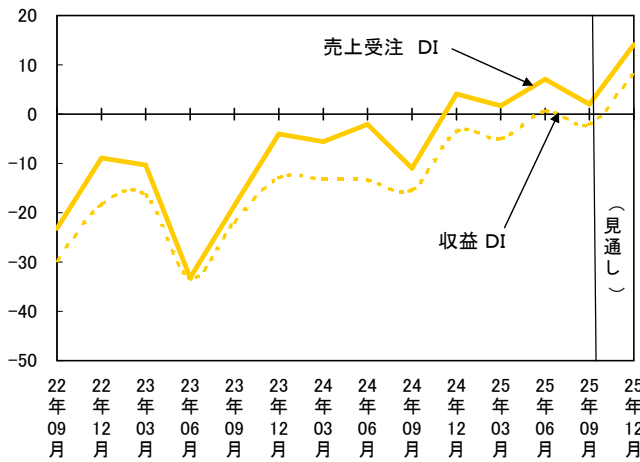
◆懸念される「仕入価格の上昇」◆

第一位は「売上の停滞・減少」が54.0%、第二位は「仕入単価の上昇」が50.0%、第三位は「競争の激化」が40.0%となりました。

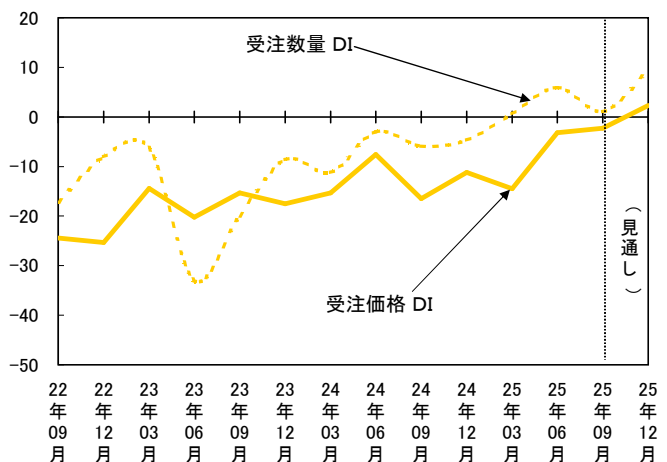
食材価格などの「仕入単価の上昇」が、ますます大きな経営上の問題点として浮上しています。中小飲食業では、「仕入単価の上昇」が収益に及ぼす影響が懸念されます。

(中小企業診断士：兵庫、仲井、澤田)

【売上受注・収益DIの推移】



【受注価格・数量DIの推移】



◆他業種を牽引する建設業◆

売上受注DIはプラス2.0（前回比-5.1ポイント）、収益DIはマイナス2.1（前回比-2.7ポイント）となり、売上DI・収益DIともに下落しました。平成25年10-12月期は、売上DIは12.1ポイント、収益DIは10.4ポイント改善する見通しです。

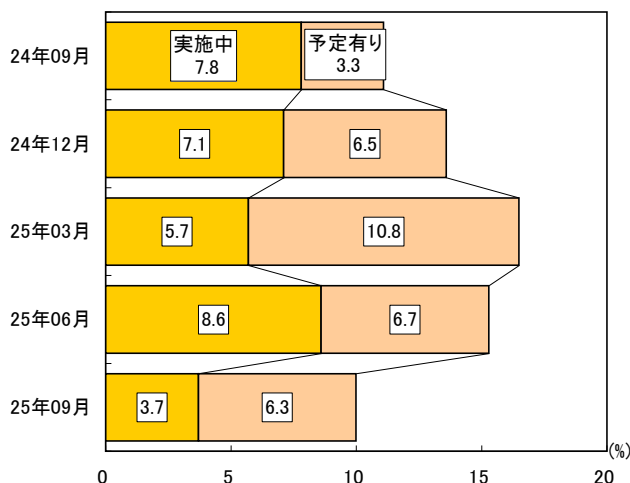
売上の回復には、消費税の税率引上げ前の駆け込み需要が寄与しています。今後、契約した建設工事着工による売上の増加から売上DI、収益DIともに大きく増加すると予想しています。土木事業者では、公共工事の増加で売上が増加し、今後の見通しも明るく感じる企業が増えています。

◆上向く受注数量◆

受注価格DIはマイナス2.3（前回比+0.9ポイント）、受注数量DIはプラス1.1（前回比-4.8ポイント）となり、受注価格DIが上昇し受注数量DIが下落しました。平成25年10-12月期は、受注価格DIが4.6ポイント、受注数量DIが8.2ポイント改善する見通しです。

受注価格は人件費の高騰などから上昇し、発注先もある程度の価格は見積り段階で了承するケースも出てきています。

【設備投資】



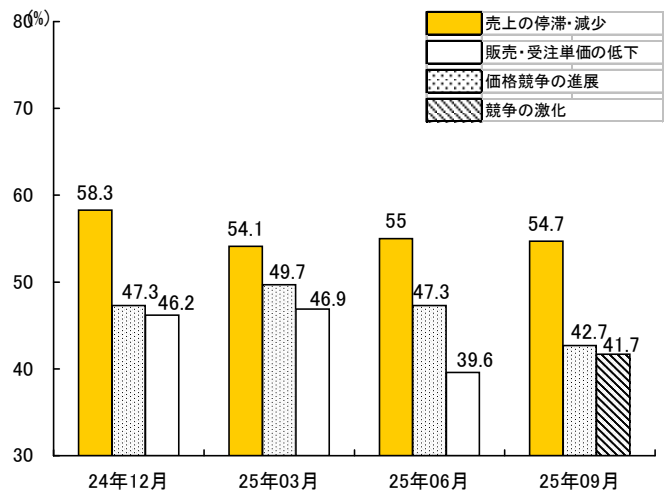
◆設備投資意欲後退◆

「実施中」は3.7%（前回比-4.9ポイント）、「予定有り」は6.3%（前回比-0.4ポイント）で、「実施中」と「予定有り」の合計は10.0%です。

設備投資の主な内容は、「車両」と「事務所、店舗、工場等の更新」が多くなりました。

また、資金調達方法は、「5割以上借入する」が最も多くなりました。

【経営上の問題点】(複数回答)

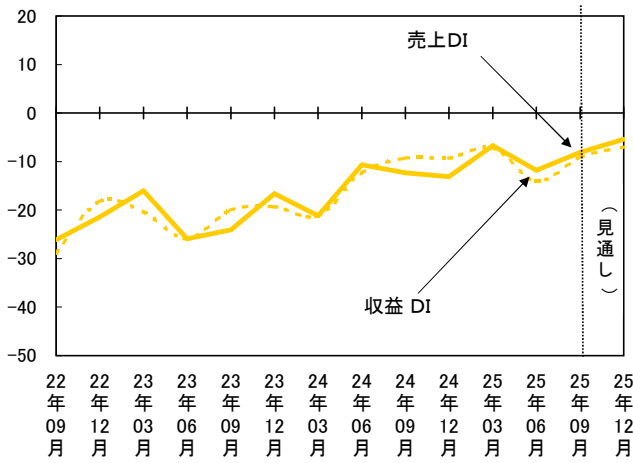


◆「販売・受注単価の低下」姿消す◆

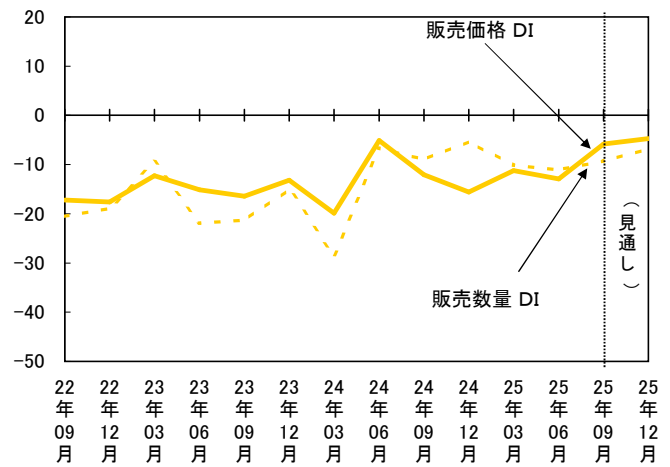
第一位は「売上の停滞・減少」が54.7%、第二位は「価格競争の進展」が42.7%、第三位は「競争の激化」が41.7%となりました。

「販売・受注単価の低下」が大きな経営上の問題点から姿を消し、ある程度の販売価格の上昇は、消費者に受け入れられつつあります。しかし、同業者間の競争はますます激化しています。

【売上受注・収益DIの推移】



【販売価格・数量DIの推移】



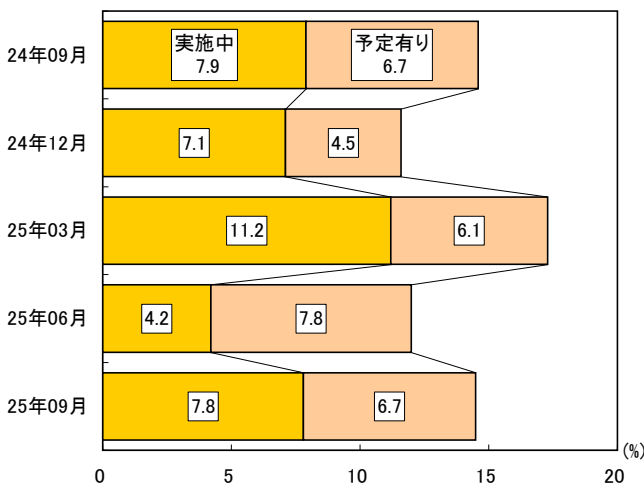
◆現れ始めた「アベノミクス効果」◆

売上DIはマイナス8.1（前回比+3.7ポイント）、収益DIはマイナス9.1（前回比+5.0ポイント）となり、売上DI・収益DIともに上昇しました。平成25年10-12月期は、売上DIが2.7ポイント、収益DIが2.1ポイント改善する見通しです。ようやく売上DI・収益DIともに上昇し、「アベノミクス効果」が現れ始めています。

◆上昇する販売数量◆

販売価格DIはマイナス5.8（前回比+7.1ポイント）、販売数量DIはマイナス9.3（前回比+1.8ポイント）となり、販売価格DI・販売数量DIともに上昇しました。平成25年10-12月期は、販売価格DIが1.1ポイント、販売数量DIは2.4ポイント改善する見通しです。年末にかけて同業社間の競争もあり、売上は販売数量で確保しようとしています。

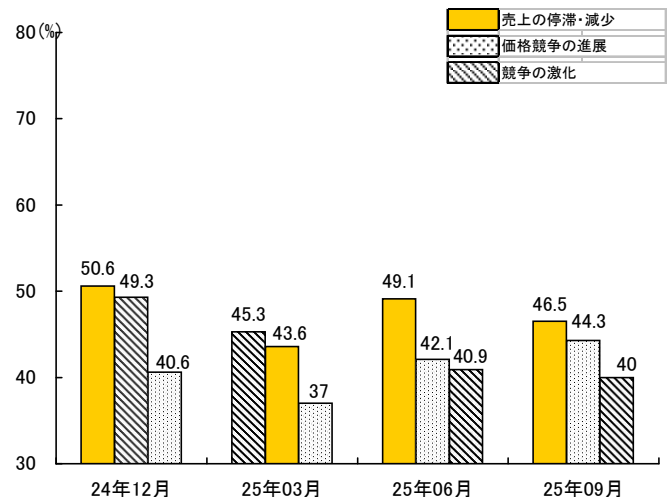
【設備投資】



◆依然高い設備投資意欲◆

「実施中」が7.8%（前回比+3.6ポイント）、「予定有り」が6.7%（前回比-1.1ポイント）となり、「実施中」と「予定有り」の合計は14.5%となりました。設備投資の主な内容は、「事務所、店舗の保守更新」と「機械等の保守・更新」が多くなりました。また、資金調達方法は、「全て自己資金」が多くなりました。

【経営上の問題点】(複数回答)



◆躊躇する販売価格の引上げ◆

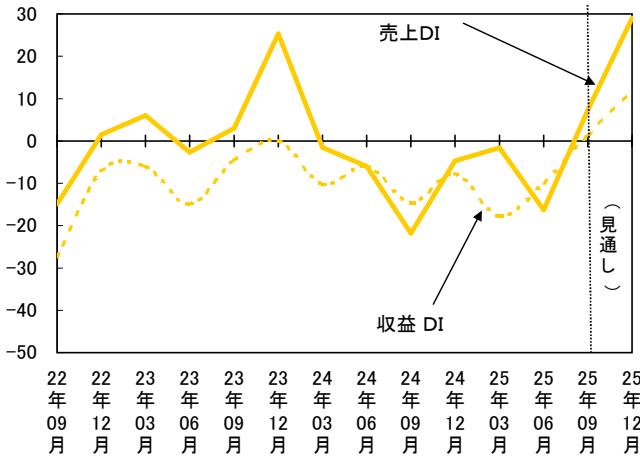
第一位は「売上の停滞・減少」が46.5%、第二位は「価格競争の進展」が44.3%、第三位は「競争の激化」が40.0%となりました。売上の回復とともに「売上の停滞・減少」は減少しました。今後、販売価格の引上げには躊躇する経営者も多く、同業社間の競争は依然激しい状況が続きます。

(中小企業診断士：尾崎、金澤、竹並)

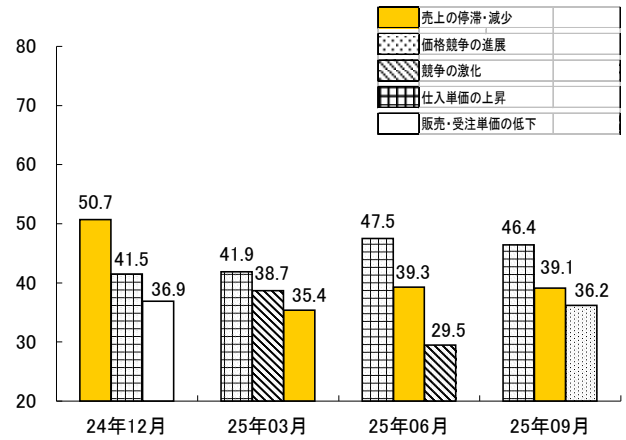
運輸業 (68社)

物流量急増 売上DIはV字回復

【売上受注・収益DIの推移】



【経営上の問題点】(複数回答)



◆物流量急増する◆

売上受注DIがプラス7.3(前回比+23.6ポイント)、収益DIがプラス1.4(前回比+11.3ポイント)と売上DI・収益DIともに上昇しました。平成25年10-12月期は、売上DIが21.7ポイント、収益DIは10.3ポイント改善する見通しです。

運送業は売上が急回復し、物流量が相当増加しています。年末や来年にかけて、景気の回復とともに業況がさらに上向くと予想しています。

◆高騰するがガソリン価格の上昇◆

第一位「仕入単価の上昇」が46.4%、第二位は「売上の停滞・減少」が39.1%、第三位は「価格競争の進展」が36.2%と続きます。

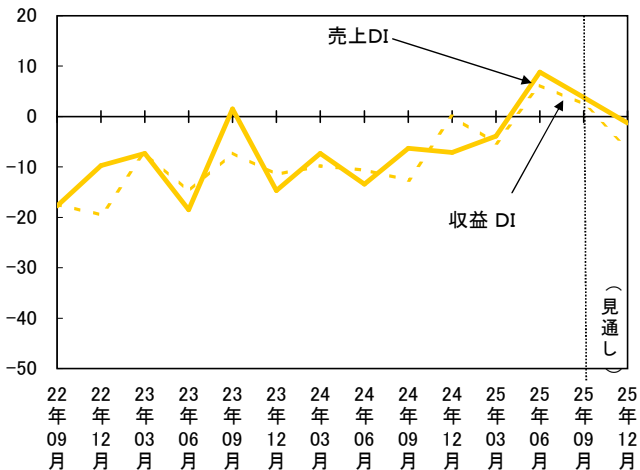
シリア情勢に起因する原油価格の高騰から、ガソリン価格は高止まりしています。売上が回復しても価格競争が経営上の問題点として浮上し、思ったほど利益は確保できません。

(中小企業診断士：小林、仲井)

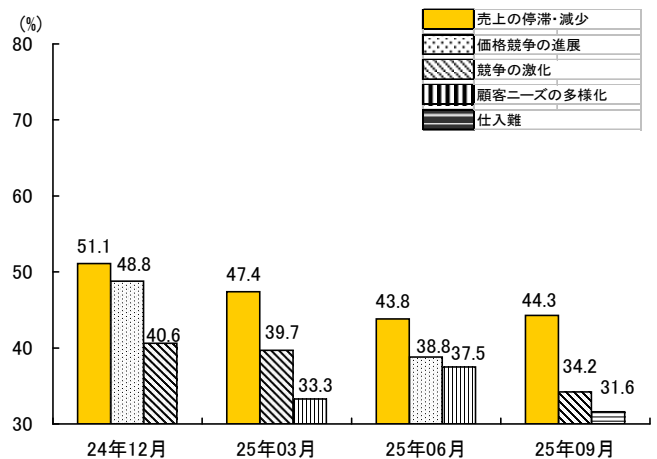
不動産業 (77社)

不足する物件 上昇する価格

【売上受注・収益DIの推移】



【経営上の問題点】(複数回答)



◆不足する良好物件◆

売上DIはプラス3.8(前回比-5.0ポイント)、収益DIはプラス2.5(前回比-3.7ポイント)となり、売上DI・、収益DIともに下落しました。平成25年10-12月期は、売上DIが5.1ポイント、収益DIは8.8ポイント悪化する見通しです。

物件価格は上昇基調にあり、また駅近・築浅など条件の良い物件は不足しています。消費税の税率引上げ前の駆け込み需要の反動で、売上・収益ともに見通しは下落すると予想しています。

◆マインド回復 ニーズは多様化◆

第一位「売上の停滞・減少」が44.3%、第二位は「競争の激化」が34.2%、第三位は「仕入難」が31.6%となりました。

「仕入難」が第三位となり、物件が不足しています。また、収益物件では商品価格が上昇し収益面で購入に二の足を踏むケースも出てきています。

(中小企業診断士：仲井、中村、宗和)